リベラリト松岡の犯罪性を撃て!!

松岡の徹底した居直りを断固として許さず団交を克ちとれ!!

二十三、二十四日両日松岡理事の授業に全面的に実力介入し、この間の松岡理事の全面的自己批判「二・一〇処分白紙撤回」対評議員会団交の確約を迫った。しかしながら「対立が解消されなかったから、早くオートノミーを回復するために契約を解除したのは当然である」と一蹴した居直りをきめこんでいる。彼然として「良識家」としての仮面を被りつづけ、居直りを続ける松岡理事をわれわれは断固として許すことはできない。

彼はあたかも「B派諸君のスポンサー」(松岡発言)が今回の問題の主要であるかのような態度を取ることによって全く自らの責任性・犯罪性を隠蔽している。いわゆる「スポンサー」反動O・B一派の策謀のみが問題なのではない。少なくとも彼ら理事の犯罪性は、十・二六以降学会員総会の設を経て編集部が顧客返還等の業務再開を理事会に要請した時にはじまる。だが松岡理事は、「対立(B派諸君の発行妨害・暴行等)がありそれを編集部(学会員総会)が処分したところまでを認めながら、しかしながらそれ以降もトラブル(彼らB派がその総会決定に従わなかったことをさす)が解消されなかったからこの論理は、論理以前に常識的な介入でなくてなんであろうかある」と主観的に言ったところこと以外の何物でもない。

・そしてさらにはああした松岡果てしてきたのかわれわれは看破「はまさに反動派の政治に利用反動派が用いてきた論理はまさ

われわれにとっての敵は反動平カデミズム・リベラルをこそ彼ともいうべきあのケネディは本人ではないか。

全ての学友諸君、白石等の最と、松岡が容易に自己批判こなを回復するために契約を解除き、断固として粉砕しようでは

当局は明確に妥協みを待っている。しかしそのような策動を断固として粉砕する松岡が居直り続けるなら、その居直りを許さぬ斗いを構築しようではないか。徹底して授業を糾弾の場に変え、断固として追及せよ。

われわれの斗いが未だ不充分であることを踏まえつつ、更なる自己解体を通じた自己の解放へと。管理体制もきっぱりと拒否し管理体制に死をもたらせ。われわれと入われわれを結合する運動を、明大新聞を。

松岡理事は自治権・編集権侵害・介入を行なったことを自己批判せよ。大学の管理体制の一環を担ったことを自己批判せよ。二・一〇処分白紙撤回、対評議員会団交を確約せよ。

労働法の権威の論理の破産

の「良識」——は如何なる役割をこの間こなければならない。松岡理事の「良識」されてきたにすぎない。この間一貫して松岡の論理そのものだった。

系のみではない。それを支えるところの粉砕となければならない。リベラルの象何をやったか。まさにベトナム侵略の帳

も反動が簡単に自己批判したその政治性い政治性は変装にすぎない。オートノミしたとするあの劇的スリカエ論を見抜ないか。

- 2・10処分粉砕!!
- 理事会・評議員会・参与会解体!!
- 参与会答申粉砕!!
- 明大新聞学会斗争勝利

マップ共斗